

# 視 察 報 告 書

報告者氏名：川本 伸

委員会名：環境教育常任委員会

期 間：令和6年10月21日（月）～23日（水）

## 視察都市等及び視察項目

- (1) 川崎市：環境問題をテーマに市民が学べる施設について
- (2) 泉大津市：体育館の空調設備について
- (3) 北九州市：教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について

### 【1】 川崎市：環境問題をテーマに市民が学べる施設について (概 要)

全国的に地球温暖化による気候変動や、増え続けるごみによる環境汚染など、環境問題に対する意識は年々高まり、総合的な施策の推進を必要としている。この川崎市においても、地球環境やエコへの取組などを学べる体験型の施設として、川崎区浮島町にある「かわさきエコ暮らし未来館」が2011年8月に開館、次いで2016年4月には麻生区王禅寺に「王禅寺エコ暮らし環境館」が開館している。

今回は、環境教育常任委員会として「王禅寺エコ暮らし環境館」を視察した。またこの施設では、大きく4つのゾーンに分かれ、環境問題について学ぶことができる。

- ①資源循環ゾーン：分別して集められた資源物がどんなものに生まれ変わるのか、また3R（リデュース・リユース・リサイクル）などについて学べるゾーン。
- ②温暖化対策ゾーン：地球温暖化のことや、再生エネルギーなどについて学べるゾーン。
- ③自然共生ゾーン：川崎市にはどんな動物や植物がすんでいるか、また自然共生社会を作るためには、どうしたら良いのかなどを学べるゾーン。
- ④総合学習ゾーン：市役所の取組や市民の取組、または企業などの取組が学べるゾーン。

以上の内容が、無料で誰でも学べる施設になっている。



### （所感等）

本市においても、環境問題の意識は高く、その取組として、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「横須賀市ゼロカーボンシティ」を2021年1月に宣言している。さらには、新たな温室効果ガス排出量の削減目標を定めるとともに、総合的に施策を推進するための計画として、2022年3月には「ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン」と題して本計画を策定した。2050年には、再生可能エネルギー利用の加速・拡大、エネルギーの地産地消が図られるなどの将来イメージを描いている。

しかし理念や計画があっても、実際に見たり聞いたりという体験をする場所がないことが本市の課題だと感じている。今回視察をさせていただいた「王禅寺エコ暮らし環境館」では施設内の体験はもとより、定期的にイベント等も開催している。さらには、展示設備等について住民の意見を聴取するために「リサイクルパークあさお市民利用施設に係る住民懇談会」を設置し、地域住民の代表者に委員となっただき、展示内容を決定するなど、住民の方にも協力していただき、環境問題を自分ごとにするようなきっかけづくりなども行っている。是非本市も参考にさせていただき、市民一人一人が環境問題に興味を持っていただけるように取り組んでみたい。

### 【2】 泉大津市：体育館の空調設備について （概要）

学校や地域にある体育館などの施設は、学校教育での使用はもとより、地域コミュニティーの一環としてのスポーツやイベントをする場であったり、災害時の避難場所などにも活用されている。その中で、近年の気

候変動の影響で、特に夏の時期は体育館内の室温が上昇し、施設利用者の活動に支障をきたしている現状がある。その打開策として、体育館内にスポットクーラーやエアコンを何台も設置して対応しているところもあるが、室内温度を下げる際の効率が悪いことや工事費用の問題、また気流が発生するためにスポーツの種目によっては**風**の影響を受けてしまうこと、さらにはウイルスなどを拡散してしまうなどの課題がある。

そこで泉大津市立総合体育館では、2023年に新しい技術である「全空気式床ふく射冷暖房システム」を採用した空調設備を導入している。このシステムの特徴は床下に設備を設置することである。例えば室内を冷やす場合は床面を冷やすことによって発生するふく射熱で室内の空間を冷やすため、風の影響を受けやすい競技も空調に左右されないメリットがある。また、災害時の避難場所として使用する際にも、たとえ猛暑であったとしても快適な室温を保つことが防災拠点としての機能強化につながるものである。



### (所感等)

本市の市立学校体育館は、学校教育での使用や災害時の避難場所として、特に夏の猛暑の時期においては、室温を快適な温度に下げるなどの改善が早急に求められる。しかし、建物の構造上、屋根や壁が断熱構造になっていないことや、また空調設備を設置するための費用面など様々な課題があり、他の自治体における参考事例はないかと模索をしていた。

そのなかで、泉大津市にて空調設備を設置していることが分かり、視察を行った。ここでは、エアコンからの空気を床下の流路を経由して根太鋼内に通し、冷暖房された空気が根太鋼に設置した孔を通じて床下地の裏側に吹き付けられ、床材に温度が伝わり、吹き付けられた空気は還流口から室内に戻され、床からのふく射と合わせて空間を冷暖房する仕組みである。そのことにより、夏の時期は24℃から26℃に保つことがで

き、スポーツとしての利用や災害時の拠点としての機能強化が期待できる。工事費用などの課題もあるが、教育環境の改善及び防災減災の観点からも、しっかり参考にしてまいりたい。

### 【3】北九州市：教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について (概要)

近年全国的に、様々な業種において働き方が見直されている。理由としては、長時間労働や少子高齢化に伴う人手不足、あるいは働く方のニーズの多様性など課題は山積している。そのなかで学校の教職員も例外ではない。本市においても教職員の長時間労働や、休日出勤などの課題も多く、他の自治体の取組事例を参考にするため北九州市に視察を行った。

北九州市では、学校の現状や課題等の体系的な分析を行うとともに、学校における業務改善に係る方針等を取りまとめ、総合的に業務改善を実施していくために、平成29年3月に「学校における業務改善プログラム」及び「学校における業務改善ハンドブック（第1版）」を策定している。さらには、保護者や地域の理解・協力を得るために「北九州市立学校における業務改善推進拡大会議」を新たに設置している。

具体的な取組としては、

- ①ICTの活用による校務効率化
- ②持続可能な学校運営のための工夫
- ③外部人材等の積極的活用による学校支援体制の充実
- ④勤務時間や休暇取得を意識した計画的な業務遂行のための勤務環境等整備

などが挙げられる。

また保護者や地域の方に対しては、「学校における業務改善についてご理解ください」と題して、業務改善を行うメリットなどが記載されたチラシも作成し、このような取組の結果、教員の時間外在校等時間の年間平均がここ数年で大幅に改善されている。



### (所感等)

本市においても平成 23 年に設置した「子どもと向き合う環境づくり検討委員会」からの提言を受け、教職員の働き方改革に取り組んできた。さらに平成 30 年度から令和 3 年度を計画期間とする「スクールスマイルプラン」を策定し、現在は令和 4 年度から令和 7 年度を計画期間とする「よこすかスクールスマイルプラン」を推進している。そのプランのなかで、本市における教職員の働き方改革の目的として、①教育現場の限られた時間の中で、子ども（幼児・児童・生徒）と向き合う時間を十分に確保するとともに、教職員の日々の生活の質や人生を豊かにし、心身ともに健康な状態で職務を遂行できるようにすること。②マネジメントを意識した業務改善を行うことで、時間外在校等時間の減少を図るとともに、教育の質を向上させること。これらのことを目的として取り組んでいる。

今回、北九州市の取組を学ばせていただいた中で、本市も同じような取組をしているが、そのなかでも興味深かったのは、教職員一人一人の「意識改革・マインドセット」を重点的に取り組んでいる点である。これは「子どものためなら」長時間勤務も致し方ないとする働き方は、教師が疲弊し結果として子どものためにならないという考え方で、このようなことも含めて業務改善を行っている。本市においても、教職員を対象とした健康診断やストレスチェックを実施し、心身の健康の保持と増進を図る取組を行っているが、教職員自身の働き方に対する意識の変革にもっと焦点をあててもいいのではないかと感じている。そのようなことから、北九州市の事例を今後も参考にしてまいりたい。